



令和 6 年 10 月 1 日

文部科学省の「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）
ー地域共創分野（育成型）」に採択されました

情報提供

2024 年 10 月 1 日、文部科学省の「共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）ー地域共創分野（育成型）」に、広島大学の「海洋リモートセンシング技術を核とした海洋文化都市共創拠点」（プロジェクトリーダー：作野裕司 先進理工系科学研究科・教授）の提案が採択されました。同事業には 66 件の応募があり、6 件が採択されました。

本学の事業は、育成期間として 2024(令和 6)年から 2025(令和 7)年までの 2 年間、毎年 2,500 万円が補助されます。2 年後の再審査で「本格型」に移行できれば、さらに 10 年間の研究費が補助されます。

同事業は、大学等のうち地域大学等を中心とし、地方自治体、民間企業等とのパートナーシップによる、地域の社会課題解決や地域経済の発展を目的とした、自立的・持続的な地域産学官共創拠点の形成が目的です。本学ではすでに 2022 年に COI-NEXT 拠点「バイオ DX 産学共創拠点」（本格型）も採択されており、最近ではアレルギー低減卵の開発と普及が進むなど、この事業で着実に成果をあげています。

今回本学の提案は、広島大学を中心とした拠点機関が持つ世界で唯一の革新的な海洋リモートセンシング技術をドライビングフォースと位置づけ、RRI(責任ある研究とイノベーション)に基づき、呉市が目指す「海洋文化都市くれ」に貢献することを目的としています。

具体的な取り組みとしては、本拠点機関が得意とする準天頂衛星（我が国の高精度な測位衛星）、合成開口レーダー衛星、水中音響技術などを使った造船業、海運業、牡蠣養殖業における技術の高度化と瀬戸内海などでの実証実験によって、将来的に「小型船が瀬戸内沿岸と島しょ部を安全に行き来できる運航と管制の技術の開発で、瀬戸内の産業を活性化する」、「海流の遠隔監視技術で牡蠣の生産性を安定化する」社会を実現したいと考えています。

【お問い合わせ先】

大学院先進理工系化学研究科 教授 作野裕司
Tel : 082-424-7773 FAX : 082-424-7773
E-mail : sakuno@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数：A4 版 2 枚（本票含む）



拠点名称：海洋リモートセンシング技術を核とした海洋文化都市共創拠点

代表機関	広島大学	プロジェクトリーダー	作野 裕司 広島大学 大学院先進理工系科学研究科 教授
幹事自治体	呉市	幹事機関	中電技術コンサルタント株式会社、 復建調査設計株式会社
参画機関	広島商船高等専門学校 株式会社エイトノット、コースタルリンク株式会社、ルーチェサーチ株式会社		

プロジェクトの概要

本プロジェクトは、拠点機関が持つ世界で唯一の革新的な海洋リモートセンシング(RS)技術をドライビングフォースと位置づけ、RRI(責任ある研究とイノベーション)に基づき、地域拠点ビジョン「海洋リモートセンシング技術の社会実装による産業発展モデル都市の実現」を設定した。具体的には、大手製鉄所の撤退で約3,000人が雇用喪失した呉市において、基幹産業(造船業・海運業・牡蠣養殖業)の一層の発展、産業構造の転換、職業選択の拡大が急務であるため、以下の3ターゲットに対する4つの研究開発課題を実施し、「海洋文化都市くれ」実現に貢献する。

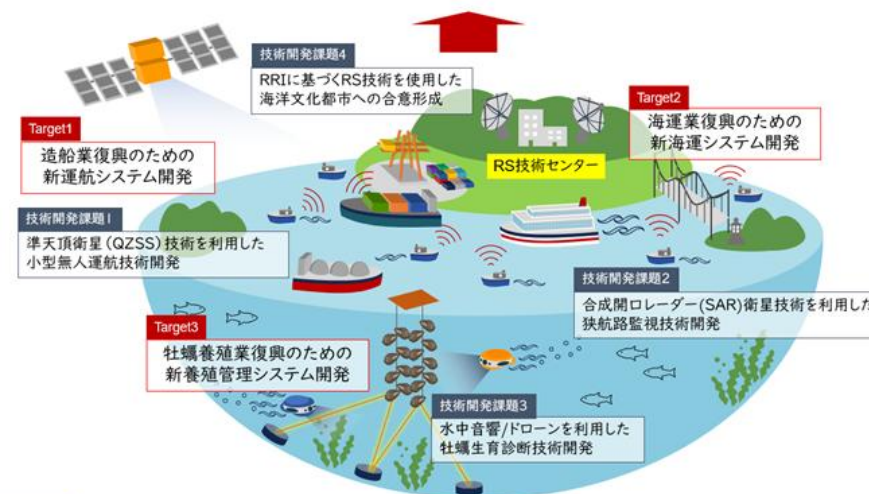
[ターゲット]

1. 造船業発展のための新運航システム開発
2. 海運業発展のための新海運システム開発
3. 牡蠣養殖業発展のための新養殖管理システム開発

[研究開発課題]

- ① 準天頂衛星技術を利用した小型無人運航技術開発
- ② 合成開口レーダー衛星技術を利用した狭航路監視技術開発
- ③ 水中音響/ドローンを利用した牡蠣生育診断技術開発
- ④ RRI に基づくRS技術の社会実装に向けた未来共創

海洋RS技術の社会実装による産業発展モデル都市の実現



将来像

